

# お客様のいかなるニーズにも 対応いたします 2mを超えるガラス部品から微細形状まで

横浜石英

うめナビ

vol.8-6

横浜石英（横浜市旭区都岡町、新川一郎社長、045・952・5439）は、当初石英ガラスの研削加工を業としていたが、現在では飛躍的な技術の向上により、パイレックス、青板ガラス、諸光学用硝子材、アルミナ、ジルコニア及び単結晶シリコン、多結晶シリコンなど、幅広い加工を可能とし、研磨加工やウオータージェット加工も自社内に設備を設置している。

同社では、横浜だけでなく福島にも大規模な工場があり、横浜本社工場では、比較的小型製品の加工を中心に、立地の良さを活かして関東近郊の取引先への短期出荷を可能としている。福島工場は、2000年の開設当初から、主に大型製品の加工を行っており、大型加工のノウハウと実績は、お客様だけでなく同業者からも定評がある。

2つの工場と経験豊かな技術者を最大限に活かし、ガラス素材の研削加工は、2mを超える加工サイズの製品から、微細加工を要求



製品を手取る新川社長

されるものまで、幅広い加工技術でお客様のニーズにあつた製品の製造が可能。大型部品であつても他社と比較して、短期で納入できる。加工実績のない素材でも、サンプル素材を頂ければ、テスト加工もできる。様々な用途に使用されるガラス部品は、多品種小ロットでの注文がほとんどで、お客様の希望に合わせた素材・形状で一個から製作している。

「特定のメーカーに属しているわけではないので、待っていては受注が増えるわけではなく、手をこまねいていると瞬く間に取引を切られてしまう。そういう環境だからこそ、洗練された技術と高精度、低コスト、高付加価値という確かな信念ができた。ただ、苛められた分ひねくれもしたけど」と新川社長は笑いながら話す。

新川社長と奥様が、それぞれ「横浜石英 技術専門ブログ」「根性の会社・横浜石英」社長の奥さんのブログのタイトルで随時ブログを更新中。より一層親しみを持って同社に触れることができる。是非アクセスしていただきたい。



福島工場内の様子